

阿賀野市立安野小学校



【学級数】

10学級

【児童数】

186人

【地域コーディネーター】

無し

子どもたちの可能性の伸張や拡張を喜び合える学校に ～安野小の子どもを守る会の取組～

1 はじめに

明治15年に山口村浄楽寺を借館して水原校派出教場を開いた。今年度で、創立138年目を迎える学校である。児童数は、今年度186名である。学校経営目標「みんなの夢がふくらむ学校」を具現化するために、子どもたちが安心して生活し、挑戦し続けることができる環境づくりの土台として、「人権教育、同和教育の視点に立った支援・指導」を基盤に据えて、丁寧で寄り添う指導を行っている。

現在、当校の地域連携の母体となっているのが、「安野小の子どもを守る会」である。当初は、不審者から子どもの安全を守る会として発足した。平成30年度に、「教育は、家庭の教えにて芽を出し、学校の教えにて花が咲き、世間の教えにて実がなる。」（「児童保護者に望む」大正8年4月5日尋常高等小学校より）を合い言葉にして、組織を再構築した。地域・家庭・学校がそれぞれの役割を果たし、かつ三者が協働しながら取組を進め、子どもたちを育てていくための推進役として、地域・家庭・学校の大人たちが絆を深め、子どもたちの成長をみんなで見守り、心豊かにたくましく育てる活動を展開している。

2 取組の実際

(1) 環境整備ボランティア活動

「子どもたちによりよい教育環境を」というボランティアの皆さんの要望を受けて活動を行っている。

今年度は、グラウンドの松の木の枝伐採と学校前道路の草取りを実施した。子どもたち、保護者、地域の方、職員合わせて約50人の参加者で、1時間の作業が行われた。他にも、校舎窓ガラス拭きや庭の池清掃、草取りなどに、多くのボランティアが積極的に協力してくれている。子どもたちの感謝の言葉に、ボランティアが笑顔で応えている様子が微笑ましい。



刈り取った草を回収



作業後に全員で

(2) 読み聞かせボランティア活動

毎週水曜の朝学習時に、低→中→高学年の順番で、2～3名の方が、学級単位で子どもたちに読み聞かせをしてくれている。

子どもたちは、「次はいつ来るの?」「何を聞かせてくれるのかな?」と、楽しみにしている。また、ボランティアも、「自分

も楽しみにしている。」「子どもたちの顔を見ていると、元気が出てくる。」と、楽しみや生きがいにくれている。



聞き入る子どもたち



子どもたちの感想

(3) 学習支援ボランティア活動

生活科栽培活動、昔遊び、体育（タグラグビー等）、図工（木工作り）、家庭科（ミシン、調理）等でも、ボランティアの支援がある。皆さん快く引き受けてくれている。また、子どもたちの目線で話をしてくださるので、子どもたちも安心して取り組むことができ、学習効率を上げることにもつながっている。



木工作りボラ



タグラグビーボラ

4) 校外学習ボランティア活動

地域の商店や施設の方々の協力をもとにして行う、2年生生活科の町探検や学校行事の縦割り班校区内オリエンテーリング等の校外学習でも、ボランティアが解説や引率の支援をしてくれている。校区内をよく知り尽くしている方々であり、子どもたちが知らない地域のことを教えてくれることが多々あり、子どもたちに新しい発見を与えてくれる存在になっている。

上記のようなボランティア活動にくり返し協力してくれている方も多く、子どもたちも安心して交流することができている。



まずはごあいさつ



説明してくれるボランティア

3 成果と課題

及び本実践で育成された資質・能力

ボランティアの専門的な知見から、的確なアドバイスを受けた子どもたちは、自信を付け、友達の作業を手伝ったり、自分なりのアドバイスを送ったりする姿も見られるようになった。そして、自分が友達の役に立つことができたという気持ちを、振り返りの場でもつことができている。【学びに向かう力・人間性等】

2年前までいた地域コーディネーターが現在不在となっている。そのため、以前のようなきめ細かいボランティアとの交流が行き届かない状態である。その上、新型コロナウイルスの感染防止対策のため、以前行っていた活動を自粛している実情もある。また、地域からも、いろいろな人材を活用してほしいといううれしい要望もある。地域コーディネーターの人選を含め、安野小の子どもを守る会との連携協力を一層推し進め、子どもたちの学びに向かう力や人間性の涵養に向け、より充実した取組にしていく必要がある。

4 おわりに

地域とともにつくる学校として、まだまだ裾野を広げている段階ではあるが、急がず、長続きする取組にしていきたいと、安野小の子どもを守る会と話し合っている。そして、地域の人とのふれあいを通して、①地域に愛着をもつ、②人間性を学ぶ、③地域に優しさを返す3つのことを子どもたちの力として付けさせたいと考えている

また、ボランティアの皆さんも、子どもたちの成長を楽しみ、生きがいにつながりつつある。今後も、お互いの Win-Win の関係を大切にして取り組んでいきたい。そして、子どもたちの可能性の伸張や拡張を、共に喜び合える学校をつくりあげていきたい。